

科目名称：	デザイン・ビジネス演習 I	
担当者名：	大谷 友理、東田 修一、大場 新之助、アマヤギ堂ジュン	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	8
授業の目的・テーマ		
デザインをビジネスにするための基礎を実習を通し体験学習する。種々の材料や機材の扱い方の基礎やデザインの考え方などを学ぶ。具体的には、ポスター、イラストレーション、ロゴマーク、フォント、パッケージ、WEB、写真、アニメーション、映像作品、商品企画などを制作し、コミュニケーションデザインや視覚デザインを探究する。また手法に捉われず、社会の問題を見つけ出し解決していく能力や公共心を養う。		
授業の達成目標・到達目標		
2年次の実際的な課題に対応出来る表現方法を身につける。さらにさまざまな課題演習を体験することにより、自分の得意分野を見つけ出す。学外での授業で審美眼や社会性を養い、グループワークなどで感覚や感動を共有する事で多様な価値を認め、発想力を磨き個々の制作の礎とする。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP(2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP(4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	

評価方法/ディプロマポリシー	視覚表現力	探求心	アイデア	独自性	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)	25	25	25	25	100
美術DP(3)					0
美術DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》大谷 友理：デザイナー、アートディレクター、イラストレーター、Webデザイナー	《経験年数1》20年
	《内容2》東田 修一：デザイナー	《経験年数2》10年
	《内容3》大場 新之助：デザイナー	《経験年数3》10年
	《内容4》アマヤギ堂ジュン：イラストレーター	《経験年数4》20年

備考

到達目標ルーブリック	とても良い(S)	良い(A)	普通(B)	要努力(C)
視覚表現力	表現したいことが適切に反映されており、人に何らかの感動を与える質の高いビジュアルである。	表現したいことが適切に反映されており、質の高いビジュアルである。	表現したいことが部分的に反映されており、ある程度整ったビジュアルだが改善点もある。	表現したいことが反映されておらず、未完成なビジュアルである。
探求心	テーマに対して深く探求し、あらゆる方法で取材を行って見聞を広めている。	テーマに沿って取材を行っている。	テーマに沿って部分的に取材を行っているが十分ではない。	テーマに沿って取材できていない。
アイデア	着眼点が良く、新規性があり、創意工夫できている。	着眼点が良く、創意工夫できている。	ある程度創意工夫できているがものたりない。	ありきたりで創意工夫できていない。
独自性	個性を磨き上げ、何物にも替えられないユニークな表現ができている。	個性を認識し、魅力的に表現できている。	個性を認識し、ある程度表現できているがものたりない。	個性を発揮できていない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1週 イラストレーション表現、表現材料の探求1	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第2週 イラストレーション表現、表現材料の探求2	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第3週 外部機関と連携した課題解決型学習。グループワークを踏まえ制作を行う。	テーマや行き先について取材しておく。	60分
第4週 カレンダーやフォント制作、写真表現などの視覚デザイン演習1	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第5週 カレンダーやフォント制作、写真表現などの視覚デザイン演習2	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第6週 カレンダーやフォント制作、写真表現などの視覚デザイン演習3	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第7週 外部機関と連携した課題解決型学習。グループワークを踏まえ制作を行う。	テーマや行き先について取材しておく。	60分
第8週 ポスターや広告、パッケージ、インフォグラフィックスなどのコミュニケーションデザイン演習1	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第9週 ポスターや広告、パッケージ、インフォグラフィックスなどのコミュニケーションデザイン演習2	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第10週 プレゼンテーション(電子黒板の使用)	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分
第11週 外部機関と連携した課題解決型学習。グループワークを踏まえ制作を行う。	テーマや行き先について取材しておく。	60分
第12週 映像やWEB、企画などの進級制作1	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第13週 映像やWEB、企画などの進級制作3	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第14週 映像やWEB、企画などの進級制作2	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第15週 プレゼンテーション(電子黒板の使用)	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と準備学習を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては課題にかかわらず社会の取り組みに関心を持ち、新しいアイデアやデザインへの糧となる経験を積極的に行ってもらふことになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しないその他の評価配分は、以下のとおりである。 ルーブリックによる課題の評価100%		
課題に対してのフィードバック		
各課題ごとにプレゼンテーションを行い口頭でアドバイスをを行う。後日面談を通してフィードバックする。また教員だけでなく学生目線での意見もgoogleフォームで集約し各自にフィードバックする。		
教科書・参考書		
プリント配布及び授業時に各教員から紹介		